

2019年6月17日

各 位

会社名 国際石油開発帝石株式会社  
代表者名 代表取締役社長 上田 隆之  
(コード番号 1605 東証第一部)  
問合せ先 広報・IR エグゼクティブ・マネージャー 細野 宗宏  
電話番号 03-5572-0233

インドネシア共和国 アバディ LNG プロジェクト (マセラ鉱区) における  
改定開発計画に関する基本合意書の締結について

国際石油開発帝石株式会社 (以下、当社) は、当社子会社インペックスマセラアラフラ海石油株式会社を通じて操業主体 (オペレーター) を務めるインドネシア共和国アラフラ海マセラ鉱区アバディ LNG プロジェクト (以下、本プロジェクト) において、インドネシア政府当局 (以下、政府当局) と改定開発計画 (以下、改定POD) に関する協議を実施しておりますが、この度、政府当局と基本合意書 (以下、HOA) を締結いたしましたので、お知らせいたします。



HOA署名式の様子

# 国際石油開発帝石株式会社

## INPEX CORPORATION

HOAは、概念設計（Pre-FEED）作業終了後に実施した改定PODに関する協議において、本プロジェクトの経済性を確保するために、政府当局と事前に合意した事項を規定したものです。改定PODに記載するコスト見積もりは、同事項の中に含まれています。

本HOAの締結により、改定PODは十分な経済性を有する内容となったと考えられることから、今後、政府当局との間で、改定PODの提出及び承認、生産分与契約（PSC）の修正及び延長等の諸手続きを開始する予定です。

今後、当社は、これらの承認取得後、速やかに基本設計（FEED）作業を開始できるように、当社がオーストラリアで生産・操業を行うイクシスLNGプロジェクトで培った知見・経験を活かしながら、プロジェクトパートナーであるSHELL社とともに準備を進めてまいります。

本プロジェクトは、当社が豪州でオペレーターとして生産・操業を行うイクシスLNGプロジェクトに続く大型天然ガス開発プロジェクトとなり、インドネシアでは当社がオペレーターとして操業する初めての大型LNGプロジェクトです。本プロジェクトのLNG生産量は年産950万トン規模を想定し、これは、日本の年間LNG輸入量の1割強に相当します。また、アバディガス田は、世界有数の良好なガス田性状および埋蔵量を有するため、効率的な開発と長期に亘る安定的なLNG生産が期待されるとともに、本プロジェクトによりインドネシア、特に発展が求められているインドネシア東部の経済に大きく貢献することが期待されます。

なお、本件による当期の当社連結業績への影響はありません。

以上

# 国際石油開発帝石株式会社

## INPEX CORPORATION

### 【参考情報】

#### <アバディ LNG プロジェクトの概要>

鉱区	インドネシア共和国 マセラ鉱区
鉱区期限	現行鉱区期限 2028 年に、期間追加（7 年）を申請中、延長（20 年）を申請予定。 (2055 年 11 月 15 日までを申請予定)
鉱区面積	約 2,503 平方キロメートル
水深	400 - 800 メートル
鉱区位置	マルク州サムラキ市沖合約 150 キロメートル
生産規模	天然ガス総生産量（LNG 換算）年産 1,050 万トン <ul style="list-style-type: none"> <li>- LNG 年産 950 万トン規模</li> <li>- 鉱区周辺地域の現地需要向けにパイプラインガス供給を予定</li> </ul> コンデンセート日量最大約 3.5 万バレル規模
権益比率	当社（オペレーター、インペックスマセラアラフラ海石油（株）、当社連結子会社（当社出資比率 51.93%））： 65% SHELL 社： 35%
その他	2017 年 6 月にインドネシア政府から National Strategic Project に、さらに 9 月には Priority Infrastructure Project に認定

#### <鉱区位置図>

